

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙 「みらい」
NO. 4206
21年12月3日(金)
Tel・Fax 095-828-1953

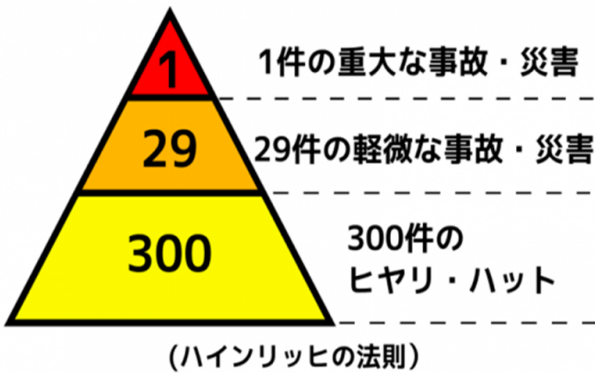
年末年始繁忙期業務運行 安全第一での業務推進を求める

おはようございます。
12月に入り集配関係
部も繁忙期になりました。
これから年賀状配達が始
ち着くまでの一か月半、
健康第一、安全第一で勤
務に当たりましょう。

ところで皆さんは年繁
の業研を受けましたか。
今回の業研はまず課長代
理に行い、課長代理が班
員に行うという形でした。
しかし課長代理と時間が
合わない社員も多く、私
も資料を渡され「昨年度
と大して変わりない、質
問が有ったら言ってみ
て」と言われただけです。
資料を要約すると「基
本動作の徹底。当たり前
のことを当たり前にやり、
安全第一でお客様の信頼
に応える業務運行を行
いましょう」と言ったこ
ろでしょうか。
今年度の年末年始業務
運行に関する業研資料自

体は社外秘(なぜこの資
料が社外秘なのかはよく
わかりませんが...)、
なので、組合が会社から
説明を受けた資料を基に
具体的に言うと、
取扱い物数は、年賀郵
便物が引き受け・配達共
に前年度比89、7%。
ゆうパックの引き受けが
85、9%、配達が92、
9%。ゆうパケットの配
達が90、6%となつて
います。どの指標も前年
と比べると1割程度低い
ほか、ピーク日の取扱い
も1割弱少ないので業務
に追われ、目途が立たな
いという事は無いよう
に思われます。

業務量が落ち着いてい
る年こそ、交通事故や労



災害はもとより、三誤
や郵送事故など品質の維
持・向上にも取り組みま
しょう。
さて皆さんも「ヒヤ
リ・ハットの法則」と言
うのを聞いたことがある
と思います。

アメリカの統計分析の
専門家ハイシリッヒが発
表した、ハイシリッヒの
法則(1...29...300
の法則)と言われるもの
で、「1件の重大事故の裏
には、29件の軽微な事
故と300件の怪我に至
らない事故がある」とい

うものです。ハイシリッ
ヒの法則は労働災害にお
ける怪我の程度を分類し、
その比率を表している
と言われます。

重大事故という「結果」
は不安全な行動や不安
な状態という「原因」か
ら生まれるものであり、
「ヒヤリ・ハット」で顕
在化した危険に対策を講
じる事で、重大事故の発
生が抑止できると考えら
れます。これがハイシリ
ッヒの法則の本質的な部
分で、労働災害以外、例
えば「1件の重大なクレ
ームの背後には29件の
軽微なクレーム、300
件の不満がある」のよう
にも使えます。

また「ヒヤリ・ハット」
の事例を見逃さず、対策
を行っていくことで重大
事故を防いでいくことが
重要ですが、「ヒヤリ・ハ
ット」の共有のためには
「組織の心理的安全性」
(注1)が必要と言われ
ます。組織の心理的安全
性は、従業員満足度(E
S)ともかわることで
す。「ヒヤリ・ハット」を
防ぐためにも、職場の穏
やかな雰囲気作りも必要
と考えます。

業務運行は、通常郵便
が100%未満だったこ
ともあり、通配区担当者
には「配達終了後、2時
間を目途にゆうパック応
援」との指示が出され、
半数近い社員が配達応援
に出たようだ。このため
「指定なし・以降出しゆ
うパック」も多くは捌け
た。
夕方・夜間の配達でも
9時過ぎには、ほとんど
の社員が帰局出来るなど
(受託者も帰局してい
た)、目立った混乱はな
かった。



12月1日(水)
ゆうパック繁忙スター
ト日の業務運行

各部とも繁忙期配置に
加え「以降出しゆうパッ
ク」配達対策で増配置を
行っていた。

「以降出しゆうパッ
ク」はお歳暮風習の変化
か、毎年減少している感
じ。お歳暮ゆうパックよ
りも一般のゆうパックが
多かった。

(注1)「心理的安全性」

「心理的安全性」とは、ハーバード大学のエドモンドソン教授が
提唱した「サイコロジカル・セーフティ」を日本語に訳した言葉。
心理的安全性は「チームにおいて、他のメンバーが、自分が発
言することを恥じたり、拒絶したり、罰をあたえるようなことをし
ないという確信をもっている状態であり、チームは対人リスクを
とるのに 安全な場所であるとの信念がメンバー 間で共有され
た状態」と定義されている。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望を主眼の正社員化を。

ゆえに、均等待遇。なにより差別。ユニオンは労基法裁判に勝利した。